

令和2年度 防衛大学校卒業式

菅 内閣総理大臣訓示

本日、防衛大学校の卒業式に当たり、我が国防衛の中樞を担うこととなる諸官に対し、心からお祝い申し上げます。卒業、おめでとう。

新型コロナの影響が長引く中で、今日の日の諸官の門出を、御両親や関係者の皆様と共に祝いできず、大変残念であり、また、申し訳なく思います。

しかしながら、国民の命と暮らしを守るため、できることは全て取り組み、1日も早く新型コロナを収束させる必要があります。

その中で、自衛隊は、最後の砦（とりで）として期待されております。私は、今年1月、知事の要請があれば、医療チームをいつでも投入できるよう、万全の体制を整えることを、自衛隊に指示しました。

その後、クラスターが発生した沖縄の高齢者施設に、自衛隊の看護官がただちに支援に駆け付けました。「おかげで施設の雰囲気良くなった」、「本当にありがたい」という、感謝の声が寄せられました。

これまでに、延べ2万人を越える隊員が各地に派遣され、国民に寄り添い活動をしていることを誇りに思います。

10年前の東日本大震災の際も、自衛隊は、最後の砦として、役割を果たしました。

震災発生から72時間後には6万人、1週間後には10万人の隊員が、全国各

地から駆けつけました。そして、行方不明者の捜索や、御遺体の収容、埋葬を、不眠不休で行いました。

「辛く困難な任務のときほど、指揮官は、隊員を鼓舞するのが役目であります。しかし、当時、その必要は全くなかった」

四国から派遣された井上 武（たける）第14旅団長は、こう振り返ります。現場の隊員の士気は非常に高く、強い自覚と、使命感に満ちていたからです。

「全ては被災者のために」、「被災者のためには何でもやる」、隊員一人一人が、そうした強い思いを持ち、陸・海・空自衛隊、そして在日米軍が一体となって懸命に任務に当たりました。

震災から1年後の世論調査において、自衛隊の活動を「評価する」と答えた人は、97・7パーセントに達しました。隊員の強い思いが、国民に届いた証だと思えます。

自衛隊は、この史上最大の作戦を実行している間も、我が国防衛のための警戒を怠らず、また、ハイチや南スーダンにおける国際平和協力の任務を粛々と遂行しました。

今後、こうした様々な任務を担う諸官に対し、2点、強調したいと思えます。

第1に、将来の変化に、的確に対応してほしいということです。

今からちょうど30年前の1991年、ソ連が崩壊しました。その後の安全保障環境が激変する中で、自衛隊には、次々と新しい任務が付与され、活動の幅は

大きく広がりました。特に、海外へは、国連PKOなどに、延べ6万人が派遣されました。

「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえる」諸官の先輩は、この宣誓を胸に、30年前、誰も予測できなかった数々の任務に、立派に対応してきております。

そして、30年後、諸官が自衛隊の主要幹部になっている頃を想像してください。これまでに無い課題や脅威が現れ、新たな任務が自衛隊に付与されているのではないかと思います。

そうした中で、一番大切なのは我が国防衛への備えです。国防という最も厳しい事態に対処できるよう、日夜訓練に励むからこそ、新たな任務にも対応できるはずです。

我が国防衛と国際社会の平和と安定は、諸官の双肩にかかっています。

私の座右の銘は「意志あれば道あり」です。

諸官には、強い意志を持って、進んで新しいことに挑戦して、将来の変化に適応してほしいと思います。

2点目は、同盟国や友好国と積極的に交流し、信頼関係を構築してほしいということです。

複雑化する安全保障環境下では、もはや、どの国も、一国のみで自国の平和と安全を守ることはできません。同盟国や友好国の協力が不可欠であります。

私自身、来月予定している訪米を通じ、バイデン大統領との個人的信頼関係を深めつつ、日米同盟の更なる強化にしっかりと取り組む決意です。同時に、あらゆる機会をとらえて首脳外交を積極的に展開し、各国との関係強化にも努めてまいります。

こうした首脳レベルの関係を踏まえ、各国軍隊と固い絆（きずな）を築くことができるのは、自衛隊をおいて他にありません。一人一人が、防衛、当局間、対話や共同訓練などを通じ、地域の安全保障の要となる軍事面の絆を、より一層強固なものとしてください。

既に、諸官には、そのための大きな財産があります。本日、ここにいる、苦楽を共にした29名の留学生の皆さんです。皆さんは日本のかけがえのない友人です。一人一人が日本との懸け橋となり、地域の平和と安定のため、自衛隊員と肩を並べて、共に汗を流してくれることを期待します。

卒業生諸官。4年間の防衛大学校の生活では、辛く苦しいことも多かったはずですが、諸官がそれを乗り越え、この日を迎えることができたのは、隣にいる仲間の存在があったからだと思います。

「自衛隊は人の組織であり、人の絆が一番重要な戦力である」部下は上司を信頼し、上司は部下を信頼する。それぞれの持ち場で、そうした絆をしっかりと深めていってください。さらに国民との絆、同盟国や友好国との絆も、大切にしてください。

御家族や関係者の皆様。卒業生諸官は、凛々（りり）しく、頼もしい姿に成長しました。皆様の御支援に、心より御礼を申し上げます。彼らが、万全の環境で

任務に当たることができるよう、自衛隊の最高指揮官として、全力を尽くすこと
をお約束いたします。

最後になりますが、教職員の皆さん、学生に対する日々の熱心な指導、誠にあ
りがとうございます。

特に、國分（こくぶん）学校長におかれては、9年間にわたり学生の教育に情
熱を注いでこられました。愛情にあふれ、魂のこもった学校長の指導は、教え子
たちの大きな指針となり、人生の糧となっているに違いありません。これまでの
御尽力に、改めて感謝を申し上げます。

卒業生諸官の今後の大いなる活躍と、防衛大学校の一層の発展を祈念し、私の
訓示といたします。

令和3年3月21日

自衛隊最高指揮官

内閣総理大臣 菅 義 偉